



武庫川女子大学
研究者ロールモデルブック

A Book of
Role Models for
Researchers Vol.2



未来に向けてあなたはどんな進路を選びますか？



理想のワークライフバランス実現のために、
本学卒業の研究者の " 声 " を集めました

CONTENTS

03

弘前大学教授・弘前大学附属図書館長
郡 千寿子

武庫川女子大学 共通教育部 講師
西尾 亜希子

05

武庫川女子大学 文学部
英語文化学科 教授
前原 澄子

07

北海道教育大学 教育学部札幌校 講師
中道 莉央

09

11

武庫川女子大学文学部心理・
社会福祉学科講師
竹内 美保

13

株式会社デサント
芦田 悠

武庫川女子大学 生活環境学部
生活環境学科 講師
水野 優子

15

17

帝塚山学院 人間科学部
食物栄養学科 講師
小林 知未

19

武庫川女子大学 生活環境学部
建築学科 講師
森本 順子

武庫川女子大学 音楽学部
准教授

多田 秀子

21

23

NTT 東日本東北病院
上田 智美

25

同志社女子大学 薬学部
医療薬学科 助教
小川 優子

株式会社大塚製薬工場 鳴門研究所
再生医療研究室所属 研究員

阿部 直美

27

29

キャリア
支援部門

●キャリア支援部門の
活動紹介
●女性研究者相談窓口

30



努力し続ける能力と 周りからの支えがなければ チャンスは生かせない。

武庫川女子大学大学院 修士課程 修了
弘前大学教授・弘前大学附属図書館長 博士(文学)

郡 千寿子 こおり ちずこ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 大学時代に「国語史」(厳しいと評判の科目で受講生の半数しか合格しなかった)で、100点満点を頂き、担当の先生(大阪府立大)から大学院進学をすすめられ、国語学という学問世界の面白さに目覚めました。任期付き助手を勤めた後、京都女子大、大阪学院大、神戸学院大、神戸親和女子大等の大学で非常勤講師を勤めながら研究を続け、弘前大学教育学部の国語学教官公募に応募。多数の候補者の中、厳しい業績審査を経て助教授として採用されました。現在、教授として教育と研究に従事する一方で、教育研究評議員、附属図書館長として、大学の管理運営の重責も担っています。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A 夢の実現のために努力したという思いは全くありません。目の前の仕事に誠実に向き合い、全力投球してきた結果、研究職に就く

ことができました。仕事の期限や原稿(論文)の締切を守る、毎年研究成果を公表する、他人が敬遠する雑用雑務も快く引き受ける、を自身に課して実践してきたつもりです。弘前大学に赴任後は、教育と研究だけでなく、委員会などの諸業務に携わる中からも多くのことを学ばせていただきました。与えられた職務に対していつも最善を尽くすことが何より大切だと思っています。

Q 何故今の研究分野が面白いと思えましたか

A 国語学は、緻密で地道な積み重ねが必要な分野だったため、自分の性格に向いていると考えて選択しました。日本最大の国語辞典『日本国語大辞典1~13巻』の編集と語誌執筆の仕事に携わり、それを契機に日本語の歴史を解き明かしてゆく研究領域に魅了されました。現在は、語彙と表記の相関性を中心に日本語の変遷を研究する一方で、教育学部の教員という立場から、言語教育の

Q 研究者を目指す(後輩)女性へアドバイスをお願いします

A たつみ都志先生(現武庫川女子大教授)から、助手時代に叱責されたことがあります。「人としては「母」でもある貴女は立派かもしれない。しかし、研究者としては誰もそんなことは評価しない。よい研究成果を出すかどうか、業績だけが評価対象だ。」と。研究者として認められるかどうかは、男女の性差も家庭環境も無関係である、という当たり前のことを厳しくご教示くださいました。当時の私は、育児や家事と仕事の両立に疲れ果て、少し甘えた気持ちがあったのかもしれませんが、「女性は男性の3倍の業績がないと評価

されない。」とも言われました。こうした周囲の叱咤激励があったからこそ、どんな境遇の中でも、仕事に対して厳しい心構えで頑張ることができた、と心から感謝しています。研究者は、目指して就ける職業ではありません。必死で努力しても、その姿勢や研究結果を評価してくれる誰かがいてくれなければ報われません。少ないポストを巡っての競争も過酷です。周囲の支援や幸運など、様々な要因が必要かもしれません。努力だけで夢が叶うというのは幻想ですが、一方で、どんなに資質があっても、努力し続ける能力と周りからの支えがなければチャンスは生かせません。覚悟と気概をもって、精進されますよう願っています。

■ 経歴

1990年 武庫川女子大学大学院修士課程修了	2010年 弘前大学教育学部教授	2014年4月~ 弘前大学附属図書館長
1990~1995年 武庫川女子大学助手	2012年2月~ 弘前大学 教育研究評議員	2014年1月~ 全国大学国語国文学会常任委員
1999年 弘前大学教育学部助教授	2012年2月~2014年3月 弘前大学出版会編集長	

PROFILE





きっかけはイギリスでのカルチャーショック。

武庫川女子大学 文学部 英米文学科 卒業
武庫川女子大学 共通教育部 講師

西尾 亜希子 にしお あきこ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 大学2年生を終えた後、1年間休学してイギリスのケンブリッジに語学留学をしました。当時、外資系企業の秘書になりたいと考えており、英語の勉強をしたり、秘書検定を受けたりと準備をしていたのですが、どうしてもスピーキングに自信がありませんでした。スピーキング力をつけるために留学したのですが、留学先では男性の前であろうと、年上の人の前であろうとまったく物おじせず自己主張する女性に次々と遭遇しました。路上で夫をどなりつけている妻にまで。(笑) そのような女性の存在自体がもう本当にカルチャーショックでした。私自身を含め、日本人女性とイギリス人女性と何が違うのか、教育やしつけのあり方の違いによるのではないかと、毎日悶々と考えるようになり、女子教育やしつけに関する本を片っ端から読むようになりました。それでは飽き足

らず、大学院に進学して勉強をしました。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A 「努力」とは言えないかもしれませんが、孤独と貧乏に耐えたことでしょうか。孤独については、幼い頃から自他ともに認める「ガキ大将」で男女に関わらず多くの友達と常に遊んでいる(つるんでいる)タイプだったのですが、大学院に進学したり、論文を執筆したりするには真逆の生活を送らなければならないので、最初は辛かったです。でも、大学院留学の準備をする頃には孤独を楽しめるようになっていました。夢に近づいている実感の方が大きかったからでしょうね。貧乏については、大学院留学期間中、給付型奨学金を二つ受給していましたが、それでも生活はぎりぎりでした。特に博士論文を仕上げる頃は本当に苦しくなっ

て、「一文字でも早く書いて、一秒でも早く帰国しなければ」という状況でした。雨漏れとネズミの足音がする寮での生活も今では良い思い出です。

Q 何故今の研究分野が面白いと思えましたか

A 自分自身が女性であることが大きかったと思います。自分のことでもあるのに、わからないことや解決しなければならないことがあります。例えば日本人女性は高学歴化していますが、総じて低賃金にとどまっています。でも、結婚・出産・育児への関心が強すぎて、そのことを疑問視しない女性も多いようです。

疑問や問題がある限り、研究テーマがあるわけで、論文のテーマについてあれこれ考えるのが好きです。

Q ON/OFFの切り替えのコツは?

A 10歳の娘がソーイング、スイミング、ポーリング、キッズニアと何にでも容赦なく誘ってくれるので、OFFせざるを得ません。「えー、今だけは勘弁してー!」と叫び、夫に助けを求めることもあります。ニッチ時間の活用は上手くなりました。キッズニアの保護者ラウンジにもよく出没しています。

■ 経歴

1991年 武庫川女子大学文学部英米文学科卒業
 1993年 関西外国語大学大学院外国語学研究科言語文化専攻博士前期課程修了
 1995年 ロンドン大学教育研究所女性と教育専攻修士課程修了(ロータリー財団奨学生)
 2001年 ロンドン大学教育研究所教育学専攻博士課程修了(ブリティッシュ・カウンシル奨学生、PhD取得)
 2009年 博士課程終了後、本学、大阪女学院大学、同志社大学等非常勤講師を経て現職
 専門は教育社会学(高等教育とジェンダー)。

PROFILE



これまで以上に勉強して、 文学の面白さを伝えて行きたい。



武庫川女子大学大学院 文学研究科 英語英米文学専攻 修了
武庫川女子大学 文学部 英語文化学科 教授

前原 澄子 まえはら すみこ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 子どもの頃から、英文学の名作を原書で読むことに強い憧れを持っていました。英文科に入学すると、当時は英米の詩集や小説を読む授業を数多く受けることができ、それらをもとに自分の興味の幅を広げていきました。3年生になると、英詩のゼミに所属する傍ら、大学院生の輪読会に参加して、シェイクスピアを原文で読むことに挑戦しました。卒業した翌年に結婚し、7年の歳月を経て修士課程に入学しました。理由は、ただ純粋に学びたかったからです。シェイクスピアを修士論文のテーマに選び、それが今日の私の出発点となっています。



Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

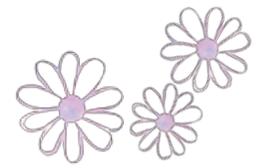
A ひとつのことを夢中で追いかけていると、あるチャンスが訪れた時に、自分でも思いがけないほどの力を発揮して、それを活かすことができるものです。私の場合は、企業に勤める夫が英国に1年ほど滞在した時に、現地の大学院で学位を取るという貴重な経験に恵まれました。今から思えば、あの留学は私の人生の転機だったと思います。帰国しても研究を続けるために、博士後期課程に進学しました。当時の本学には後期課程がありませんでしたので、関西学院大学大学院で3年間を過ごした後、幸運にも専任のポストに就くことができました。勤めて7年目に完成した博士論文は、研究人生の新たな出発点となりました。夢の実現にゴールはありませんが、夢を追いかけるプロセスで幾度か努力が小さな実を結びます。その結実が、人生のパートナーをはじめ、

周囲の人々の支えによることを実感するときに、最も大きな幸せを感じます。女性の生き方も多様化し、女性の数だけロールモデルが存在して良い時代になりました。どのような環境にあっても、柔軟な発想をもって夢を追いかけて、チャンスが到来した時に最大限の力を発揮することが大切だと思います。

Q 何故今の研究分野が面白く思いましたか

A 文学は人間の心の糧です。私の研究対象は英国ルネサンス期の演劇ですが、

そこには、異文化に対する不寛容とヒューマニズムのせめぎ合い—人種、宗教、ジェンダー、戦争—といった、まさに今日の私たちのテーマがあらゆる形で表現されています。今年度から母校の専任教員として後輩に接する機会に恵まれました。これまで以上に多くのことを勉強して、文学の面白さを伝えて行きたいと思っています。



■ 経歴 PROFILE

- 1984年 武庫川女子大学 文学部 英米文学科 卒業
- 1993年 武庫川女子大学大学院 文学研究科 英語英米文学専攻 修了
- 1995年 The University of Reading MA in The English Renaissance 修了
- 1999年 関西学院大学大学院 文学研究科 博士後期課程 英文学専攻 単位取得満期退学

- 1999年 国立明石工業高等専門学校 講師
- 2002年 国立明石工業高等専門学校 助教授
- 2006年 関西学院大学大学院 博士(文学) 学位取得
- 2007年 国立明石工業高等専門学校 教授
- 2014年 武庫川女子大学 文学部 英語文化学科 教授 (現在に至る)



バスケットボールの まだ知らないこと、新しいことを 発見するのがうれしくて、楽しい。

武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 博士（教育学）
北海道教育大学 教育学部札幌校 専任講師

中道 莉央 なかみち りお

Q 進路のきっかけは何ですか

A 小学校から学部を卒業するまで、バスケットボールに明け暮れる生活でした。そのなかで、自己の技能の向上だけでなく、技能を習得させる際の指導のあり方についても考えてきました。卒業後は、学んだことを生かせる保健体育科教員になりたいと考えていました。しかし、卒業が近づいてきたとき、小・中・高の教育現場に出る前にもう少し掘り下げた体育・スポーツの勉強をしたいという気持ちが強くなり、大学院へ進むことを決めました。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A 当時の健康・スポーツ科学科は大学院設置がまだ準備中でしたので、教育学科の大学院に進学しました。選んだ研究テーマは、学部まで経験してきたいわば「健常者のスポーツ」ではなく、「障がいのある人の

スポーツ」、なかでもとくに車椅子バスケットボールについてでした。それも、コート上の技能のことではなく、女性選手の「日々の暮らし」の調査・分析でした。私にとっては未知の領域だったので、文献を読み進めるだけでも大変でしたが、日本障がい者スポーツ協会、大阪市長居障がい者スポーツセンターなどの方々のご面識を深めさせていただく機会に恵まれました。障がいのある人を対象とする際の倫理的な配慮や、国内で障がい者スポーツが普及し始めた当時のご苦労など、多くのことを教えていただきながら、必死に勉強を続けました。

この過程で、障がいのある女性が行うスポーツの実態は国内のみならず、外国にも共通していることが少なくないことがわかり始め、日本以外の国も研究の対象にする必要性を感じました。そこで、外国での調査を進めるために、中学校の教科書を引っ張り出したり、ジャパントイズを講読したり、英語を一から勉強し直しました。授業外の時間でも英

文法の復習や文献講読など、英語の基礎固めのご支援をいただく機会にも恵まれました。また、所属研究室の先生の海外研究協力者のアテンドや国際大会に来ていた外国人役員との交流は、とても良い経験になりました。

Q 何故今の研究分野が面白いと思えましたか

A バスケットボールのまだ知らないこと、新しいことを発見するのがうれしくて、楽しかったことに尽きると思います。たとえば、私が経験してきた「覇を競い合う時間」を終え、ひとたびコートを離れて「一女性」に

戻ったときの障がいのある女性の「生きかた」について、考えさせられることが多かったからだと思います。とくに、“女性であること”と“障がい者であること”から生ずる生活の中での困難や不都合をみごとに乗り越え、生き生きと過ごしておられる姿を知り、感動することが少なくなかったからです。それに、外国人選手も日本人選手と共通、類似した社会観や将来観などを持っている実情を徐々に深く広く知ることができたことも、研究が続いた理由だと思います。

■ 経歴

学歴

2007年3月 武庫川女子大学 文学部健康・スポーツ科学科 卒業
2009年3月 武庫川女子大学大学院 文学研究科 修了
2012年3月 武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 満期退学
2013年3月 武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 博士（教育学）取得

職歴

2009年4月 武庫川女子大学 文学部健康・スポーツ科学科 嘱託助手
2011年4月 武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 嘱託助手
2012年4月 北海道教育大学 教育学部札幌校 専任講師

PROFILE



何か1つでも 社会に貢献し 研究成果を残 うる したい。

武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科
博士後期課程 単位取得満期退学
武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科専任講師

竹内 美保 たけうち みほ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 大学助手として勤務していた時に大学院で学ぶ必要があると感じ、社会人として働きながら武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科修士課程に入学しました。大学助手の仕事では、社会福祉士養成課程における実習マネジメントや学生への実習指導ならびにケアワーク教育を経験させていただきそれをきっかけに、自分の職務を全うする力を養うために大学院に進むことに決めました。当時は研究者の道は考えていませんでしたが、修士課程修了後に講師になったため、必要に迫られて博士後期課程へと進学することになりました。マックス・ウェーバーの『職業としての学問』を読むにつれ、この僥倖に感謝しつつ、日々精進しなければと考えています。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A 研究者としての夢は、何か1つでも社会に貢献しうる研究成果を残すことです。

現在、相談援助実習におけるケアワーク体験の教育的意義について研究しており、ケアワークがいかに有用であるのか、その原理を解明し、理論構築をめざすことと、学生にソーシャルワーカーの実践力をどのように身につかせるのか、その方法論を模索しています。また、武術の1つである合気の技をケアワーカーやソーシャルワーカーを目指す対人援助職養成のためのボディワーク・メソッドとして応用できないかを探求しています。合気を学ぶメリットは、相手の意識や動きに対する受け止め方を身体感覚で学ぶことであり、相手を受容しながらこちらの意識や動きも伝えていきます。ある方法(技)を用いることで、皮膚の接触と動作により人間の無意識や不随意筋に伝達されて相手が動く(崩れる)という事実があります。この身体からの接触によって人の意識や行動を変えることができるのかを確かめるべく、日々、技術の修得に励んでいるところです。秘技が科学的に検証され、だれもが

使える対人援助技術へと昇華することを夢見ています。

Q 何故今の研究分野が面白いと思いましたか

A わが国の社会福祉士実習教育は体系化され実習モデルが構築されましたが、福祉現場では未だ手探りの状態であるといえます。とりわけソーシャルワークとケアワークは学問的にも実践的にもその関連性を認められつつも、専門職性の観点からそれらを分離させた実習教育が行われています。特別養護老人ホームなどの入所施設では、利用者と直接ケアを行う機会が少なくなり、このことが実習生の学びにどのような影響を与えているのかに関心を持っています。実習教育の目的は、現場の営みを知り、専門

職の技術を学ぶこと、対象者を支える方法を学ぶことであり、利用者や職員との交わりから大切なものを感じとって学ぶことです。そして、生きる人の温もりを感じ、優しい眼差しで、一人ひとりの尊厳を理解することです。人の強さと弱さを知り、優れた感受性、感応性をもつソーシャルワーカーを養成することにより、福祉現場で学生を指導してくださる福祉職員の方々のお役に立ちたいと考えています。新しいソーシャルワーク実習教育モデルは、社会福祉学、介護福祉学、教育学、心理学、身体学、物理学、宗教学、哲学などの学際的な知見が必要と考えており、その奥深さへの興味は尽きません。

■ 経歴

武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科修士課程修了。同博士後期課程単位取得満期退学。種智院大学仏教学部にて仏教と福祉を学び、卒業後、龍谷大学短期大学部専攻科にて介護福祉士資格を取得。介護福祉専門学校専任教員、特別養護老人ホーム介護職員として従事。関西福祉大学社会福祉学部助手、専任講師を経て、武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科専任講師となり、現在に至る。

PROFILE



健康をサポートする仕事なので、自身が健康であるために必要なことは積極的に取り入れる。

武庫川女子大学 文学部 健康スポーツ科学科 卒業
株式会社デサント

芦田 悠 あしだ はるか

Q 進路のきっかけは何ですか

A もともとスポーツをする事、観戦する事が好きだったこともありスポーツ業界をとにかく探しました。

また私自身が部活動で使用していたウェアを作っている会社には特に興味があり、もっと身体の構造を考えた機能的なウェアの企画ができれば面白いと思ったのも進路を決めたきっかけでした。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A 授業に出る、取れる資格は取得する、興味のある授業は積極的に取る、部活動は手を抜かない!特別なことはせず、本当に基本的なこと・今の自分ができることを精一杯やっていたと思います。そうすることで本当にやりたいこと興味のあることやるべき事が何となく見えてきます。あとは学生らしく、毎日を元気に過ごせ

るように友達と楽しい話をしたりおいしいものを食べたりしていました。

Q 何故今の研究分野が面白いと思えましたか

A 私は研究をしているわけではないですが姿勢インナーの企画に携わっており、身体のメカニズムや姿勢をよくするための筋肉、トレーニング方法などを常に意識して勉強しています。

身体のメカニズムに関しては大学で学習していたということもあり全体的なイメージは付きやすかったのですが、姿勢というテーマに特化して勉強をすることで姿勢が健康と非常に密接に関わっているということを知りました。勉強中の姿勢、デスクワークでの姿勢、歩いている時、スポーツをする時、全てにおいて姿勢がその人に与える影響は大きいのです。子供から大人まで全ての人に美しい姿勢を提供できるようなインナーをつくることで

できればそれは同時に健康をサポートすることに繋がります。そういったところに行きたいと面白さを感じています。

Q ワークライフバランスを実現していくために工夫・努力していることは?

A まさに今一番課題にしていることです。今までは1日の時間におしりを決めずにダラダラしていた業務も定時で絶対に終わるという目標を決めて短期集中で業務をこなそうとしています。そうすると定時以降に時間ができ好きな事ができます。私の場合はキックボクシングへ行って1日の疲れを取ります笑。友達とおいしいものを食べに行ったりなどにかく仕事漬けの毎日にしないようにしています。

健康をサポートする仕事なので自身が健康であるために必要なことは積極的に取り入れて毎日楽しく過ごせるように工夫しています。



■ 経歴

2005年 武庫川女子大学 文学部健康スポーツ科学科 入学
2009年 武庫川女子大学 文学部健康スポーツ科学科 卒業

2009年4月 株式会社デサント入社

PROFILE



実際のフィールドに できる限り足を運ぶ。

武庫川女子大学大学院 生活環境学研究科 生活環境学専攻
博士課程 単位取得満期退学
武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科 講師

水野 優子

みずの ゆうこ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 大学時代は文学部を専攻しており、今とは異なる分野に進んでいました。しかし、その就職先で都市計画やまちづくり関連の多くの研究者と出会う機会を得て、その調査や研究に携わっていく中で、普段、何気なく暮らしている都市やまちが古の時代から蓄積した知恵と工夫で創られていること、そして進歩した現代においてもなお多くの問題・課題を抱えていることを知らされ、強い関心を抱くようになりました。そのうち、自分のやりたいことはここにあると考えるようになり、あらためて専門的に学ぶため本学大学院に進学することを決めました。幸い希望通りに現職にも就くことができ、都市計画、まちづくり分野の研究を継続しています。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

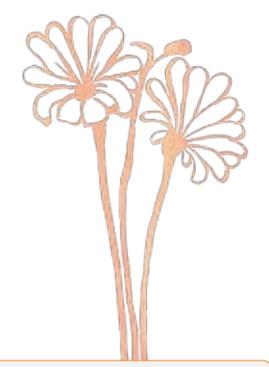
A 「夢の実現」というとなかなか答えづらいですが、「研究する上で心がけていること」は、実際のフィールドにできる限り足を運ぶということです。日常の業務は研究だけではありません。研究に付帯する事務もあれば、教育職としての重要な役割もあります。働くということは多忙なもので、それはどの職種も同じでしょう。そうすると日常に追われ、ついついデスクワークに没頭してしまいがちです。特に IT の普及により、研究室のイスに腰掛けたまま、膨大な情報が得られるようになりました。便利な反面、文献資料やパソコンの情報が全てだと錯覚してしまいそうになります。自分の視野だけにとらわれず、学会や研究会、プロジェクト等さまざまな場に出かけ、研究者や関係者、生活者である住民や事業者と接し、話を聞き、議論し、

情報交換する。また、知らない都市、行ったことのないまちへも実際に出向き、できるかぎりその場で五感を働かせる。公言するほど上手くできてはいませんが、このように心がけながら日々取り組んでいます。

Q 何故今の研究分野が面白いと思いましたか

A 日本では、少子高齢化や人口減少、インフラの老朽化等の社会的課題が顕在化してきました。特に、計画的につくられたニュータウンや大規模団地では、これらの課題が先鋭的に表面化しています。この研究分野は、緊急の課題を抱え、社

会的な要請も高まっており、やりがいと責任を感じています。都市やまち、私たちの生活は、「つくる」から「つかいこなす」時代への移行が求められており、持続可能なまち、社会、そしてそれを支える仕組みづくりを研究していきたいと考えています。



■ 経歴

神戸学院大学 文学部総合文化学科 卒業、武庫川女子大学大学院 家政学研究科生活環境学専攻修士課程 修了、同大学大学院 生活環境学研究科生活環境学専攻博士課程 単位取得満期退学。博士（生活環境学）。
武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科助手、助教を経て、2013年度より現職。
専門は、住環境計画、都市計画、まちづくり、住宅政策。計画的住宅市街地や集合住宅等を対象とした持続可能な住宅地や地域コミュニティの形成・再生が主な研究テーマ。

PROFILE



調査では、いつも新しい発見や 解決すべき問題点が大変面白い

武庫川女子大学大学院 生活環境学研究所
食物栄養学専攻管理栄養学コース 修了
帝塚山学院 人間科学部 食物栄養学科 講師

小林 知未 こばやし ともみ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 臨地実習で保健所に行った際、同じ兵庫県であっても、北部・中部・南部地域ごとに子どもの生活習慣や運動能力、さらに肥満児や痩身児の出現率が異なっていることを知り、その地域に適した政策が必要であることを学びました。地域別に現状を評価・分析し、改善する重要性を実感したことから、公衆栄養学に興味を持ち、もう少しこの分野について知識を深めたいと考えたため、大学院への進学を決めました。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A 「夢の実現に向かって努力した」と言いますか、現在も努力をしている途中です。私自身、“自分に甘い”人間であると自覚しておりますので、研究で上手くいかない時にはそのことから逃げないように、“自分に厳しく”あろうと心がけています。しかし、一方で、あまり自分を追い込みすぎないように、適度に息抜きもするように気をつけています。

Q 何故今の研究分野が面白いと思いましたが

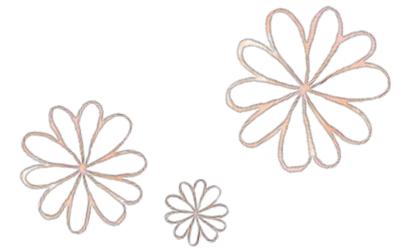
A 現在、異なった背景を持つ対象者への食事調査や生活習慣調査を行っております。同じ地域であっても、性や年齢ごとに生活習慣や食事内容の問題点が異なることから、いつも新しい発見や解決すべき問題点が大変面白いと思えます。また、調査はチームで行うことが多く、

チームメイト間で調査計画を話し合い、協力しあって、調査を実施することが大変楽しいです。

Q 休みの日は何をしていますか

A 長期休みには、出来るだけ海外に行くことにしています。現地のスーパーマーケットに行き、日本では見たことのない食材や料理を見かけたら、購入し、調理し、食べてみるように心がけています。例えば、同じ野菜であっても、日本と海外では味や色、形が異なっており、大変興味深いです。牛

乳も日本と海外では全く味が異なっています。海外でリフレッシュすると共に、論文で書かれている海外の食事を自分自身で体験することで、日本にいてだけでは学べないことについての知識を増やすようにしています。



■ 経歴

2004年 武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 卒業
2006年 武庫川女子大学大学院 生活環境学研究所 食物栄養学専攻 管理栄養学コース 修了
2010年 奈良女子大学大学院 人間文化研究所 博士後期課程 共生自然科学専攻 修了
武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 助手

2013年 武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 助教
2014年 帝塚山学院 人間科学部 食物栄養学科 講師

PROFILE



建築家は個性 環境や社会に 責任を果たす を磨くだけでなく、 対しての 必要がある。

武庫川女子大学大学院 建築学専攻 博士課程 修了
武庫川女子大学 生活環境学部 建築学科 講師

森本 順子 もりもと じゅんこ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 武庫川女子大学の助手に着任する前は、建築士として民間企業でさまざまな設計業務に携わってきました。日々の設計業務をこなす中で、自分自身の知識不足を痛感し、また現在の建築設計の在り方に疑問を持ち始めていた時に、大学という環境に戻ることができたことが博士課程へ進学するきっかけとなりました。建築は時としてその設計者よりも寿命が長く、社会に対して大きな影響を及ぼす存在となり得ます。そのため、建築家は単にデザインに関しての個性を磨くだけでなく、環境や社会に対しての責任を果たす必要があります。理想の建築家像とは、実務者であると同時に、学術的な研究者でもあるべきという岡崎建築学科長からの助言もあり、研究者としての一歩を踏み始めたところです。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A まず、人脈を作ることからはじめました。一人で研究を進めるには限界がありますが、武庫川女子大学建築学科だけでなく、他の大学や研究機関の先生方からもご指導、ご協力を得られたことはとても幸いでした。研究の糸口が思わぬところから見つかる場合もあるので、特に他分野の研究者との交流は大切にしています。また自分自身の向上ために、自国だけでなく海外の文化など、さまざまな分野に興味を広げ、日々、挑戦し続けるように努めています。



Q 何故今の研究分野が面白いと思えましたか

A 日本を代表する建築家・村野藤吾(1891～1984)の建築作品に表現されている曲面の造形に興味を持ち、実際の建築作品を実測調査するなどの研究をしています。戦前から60年余りに及ぶ多彩な創作活動を通して生み出された彼の建築作品は、今でも社会に対し大きな影響を与え続ける存在となっています。特に自由な曲面の造形には独特の美しさがあり、多くの人を引き付ける魅力があります。曲面の空間は、人に対して「動き」や「柔らかさ」といった印象を与えます。なぜ曲面の空間に引き付けられるのか、村野藤吾

の建築思想やデザイン手法を通して、美しいと感じる曲面の空間についての法則を見つけることに面白さを感じています。



■ 経歴

1996年 京都工芸繊維大学卒業
1998年 京都工芸繊維大学大学院 修士課程修了
2009年 武庫川女子大学 生活環境学部 建築学科 助手

2014年 武庫川女子大学大学院 建築学専攻 博士課程修了後、現職博士(建築学)。専門は建築設計、建築設計学。

PROFILE



曲を理解し表現できるように
なった時に感じる喜びは
何物にも代えがたい充足感に溢れている。

武庫川女子大学 音楽学部専攻生課程 修了
武庫川女子大学 音楽学部 准教授

多田 秀子 ただ ひでこ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 幼い頃から音楽が大好きで、ピアノを習っていましたが、小学校高学年では、トランペット鼓隊、中学・高校では吹奏楽部でフルート、ピッコロを吹いて吹奏楽に情熱を注ぎ、幼い頃からの憧れの教師になるために専門的に習っていたピアノを専攻して大学に進学しました。入学後の個人レッスンでピアノの音色、表現力の豊かに魅了され、吹奏楽に熱中していた頃とはピアノへの意識が変わりました。ピアノを弾くことの楽しさを改めて味わったのがきっかけで、ピアニストへの道にのめり込んでいき、たくさんの音色を出して音楽表現を瑞々しいものにするために、多くのタッチを習得し、いろんな技術を磨き、貪欲に様々な曲に挑戦しました。その練習を工夫することもとても楽しく、やりがいを感じました。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A 学生時代は基礎を固めるために、基礎

練習、技術を向上させる練習曲、いろんなスタイルの楽曲を熱心に練習し、休日は1日中ピアノに向かっていました。また、学生時代は週に5日ほどコンサートに通いピアノ、声楽、オーケストラ、室内楽など多種多様な生の音楽に接し、自分の肥やしになりました。ピアノのソロ曲の他に、多くの伴奏の経験もしました。ドイツリートは大学卒業後3年間、1年で200曲ほどのペースで勉強し、たいへん苦しい思いもしました。しかし曲を理解し表現できるようになった時に感じる喜びは、何物にも代え難く充足感があり、もっともっとやり続けたいという思いでいっぱいでした。その思いは結婚してからも子育ての時期も絶えることなく今日にまで至っています。しかし、その喜びを得るためには練習が不可欠なので、家庭を持ってからは新しいことへの挑戦や技術や音楽性の向上のためにかなり苦勞をしました。子どもの幼い頃は自分のための時間を作り出すのが一番難しく、何とかしてできた時間を有効にするために、常に練習計画を立て、集

中して練習することに徹しました。充実したい演奏を家族に聴いてもらい、次の演奏会への理解を求めてまた次の課題に挑戦する、という地道な積み重ねで家庭との両立を図ってきました。家族の理解がなければこんなに長く音楽に携わっていなかったと思います。こうして苦勞して積み上げ、経験してきたことを学生さんに伝授していける今の職業にはたいへんやりがいを感じ、若い人材の成長が自分の楽しみにもなっています。

Q 何故今の研究分野が面白いと思いましたが

A 結婚と同時に、家を守るために社会から離れた状態になってしまいました。家で一人

ピアノを楽しんでいることもできたのですが、多くの人と交流できる唯一の社会との接点として見出したのが「伴奏」の分野でした。伴奏者として歌や楽器と共演することでお互いに刺激し合い、理解し合い、一人では成し得ない音楽を作り出すことができるところに魅力を感じました。また、自分を必要とされていることにやりがいを感じ、どんどん面白くなっていきました。やり出すと大変奥の深い分野で、ただ単にピアノが器用に弾けるだけでは伴奏にならない現実に直面し、多くの知識、技術の必要性を感じ、一生探究していける分野だと思っています。



■ 経歴

- 1982年 武庫川女子大学 音楽学部器楽学科 ピアノ専攻 卒業
- 1983年 武庫川女子大学 音楽学部専攻生課程 修了
- 1983年 - 1986年 武庫川女子大学 音楽学部 非常勤助手

- 1994年 武庫川女子大学 音楽学部 非常勤講師
- 2007年 武庫川女子大学 音楽学部 専任講師
- 2012年 武庫川女子大学 音楽学部 准教授

PROFILE



「自分が納得 とことんやる 常に考えてい できるまで 」ということ る。

武庫川女子大学音楽学部 声楽学科 音楽療法コース 卒業
NTT 東日本東北病院 音楽療法士
東北大学大学院 医学研究科 非常勤講師

上田 智美 うえだ ともみ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 今の進路へと第一歩を踏み出したのは、高校1年の時でした。小さい頃からピアノを習っていたので、音楽関係の職業に就きたい、とぼんやりながらも憧れていました。その一方、家族の影響を受け、自分も顕微鏡を覗いたり、フラスコを振ったりする仕事がしてみたいとも思っていました。そんな時、テレビ番組で「音楽療法」という言葉をはじめて耳にし、認知症の高齢者が歌を歌い、昔の記憶を思い出す姿をみて、あっけにとられました。これが今の進路を選ぶに至った理由のひとつだと思います。音楽で心の変化（感動）がどうして起きるのか、音楽の持つ効果について興味を持つようになり、音楽の研究がしたいと思うようになりました。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

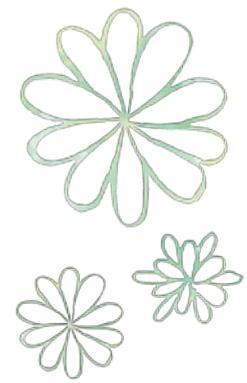
A 今ここに立っているのは、「自分が納得できるまでとことんやる」ということを常に考えているからかもしれません。大学院への進学については、医療現場で音楽療法をするには医学知識を更に深めるべきと感じるようになり、医学部との共通授業が選択できる医学系研究科への進学を決意しました。これには迷いはありませんでした。ただ、これまでと異なる領域で進めるには、予想以上の努力が必要でした。研究室内で飛び交う専門用語が十分に理解できず、ディスカッションは愚か音楽領域で科学研究をするにはほど遠い状態でした。それに加えて、英語が大変苦手だったので、研究室で毎月ある研究進捗会での発表が英語と聞かされたときは相当焦りました。ほとんどがーからのスタートでしたので、辛いことも沢山ありましたが、すべて自分が成長するため

Q 何故今の研究分野が面白いと思えましたか

A 研究始動から論文執筆の作業は労力のいるものですが、そこには多くの人との関わりが生まれます。同じ領域で研究をする国内外の研究者と情報交換する機会も多く、社会とのつながりが一気に広がったことを実感できます。以前、「研究職は泥臭いよ」と研究室の先輩から言われたことがありましたが、その言葉通り、毎日遅くまで研究データにとらめっこし、やり直しの連続です。ただ、この過程があるからこそ新しい発見へと到達できますので、その大変さが面白いのです。次が

のチャンスになったと思います。

ら次へと湧いて出てくる課題と疑問についてじっくりと時間をかけながら自分のものへと獲得していくことは、非常に遣り甲斐を感じます。私の場合は、夢の実現へとようやく駆け出したばかりなので、これから分野の発展に寄与できるよう努めていきたいと思っています。



■ 経歴

- 2008年 武庫川女子大学音楽学部声楽学科（音楽療法コース）卒業
- 2013年 東北大学大学院医学系研究科博士後期課程修了し、医学博士（障害科学）を取得
- 2013年 日本音楽療法学会認定 音楽療法士を取得
- 2013年4月 NTT 東日本東北病院にて音楽療法士として勤務。また、東北大学大学院医学研究科にて非常勤講師として勤務。

PROFILE



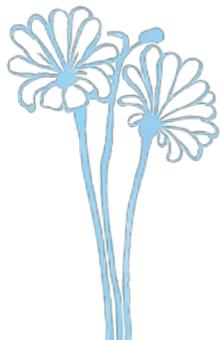
経験の浅い自分 思い描ける人 想像もつかな 分が簡単に 生ではなく、 い人生を歩みたい。

武庫川女子大学大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了
同志社女子大学 薬学部 医療薬学科 助教

小川 優子 オガワ ユウコ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 学部生の頃は将来薬剤師として働くと思っていましたし、そのつもりで就職活動も行っていました。ところが配属となった研究室での卒業研究が楽しくて、親の反対を押し切って大学院に進学しました。2年間の修士課程を終えた後、今度は博士課程へ進学。その後ご縁があり、今の職場でお世話になっています。学部生の頃は、今の自分の姿を想像も出来ませんでした。ただ、想像も出来ないことが起こるからこそ人生は面白いのかもしれませんが、経験の浅い自分が簡単に思い描ける人生ではなく、想像もつかな人生を今後も歩みたいと思います。



Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A 「努力」なんて大げさなものは何もしていません。そもそも「夢の実現」もしていません。今の自分が出来ることを精一杯するだけです。

Q 何故今の研究分野が面白いと思えましたか

A 私は今、眠りに関する研究を行っています。『脳が発達すると睡眠が発達し、睡眠が発達すると脳が発達する』と言われていますが、高等生物であるヒトが生きていく上で睡眠は欠かせないものです。しかし、「眠り」は脳の働きの中で最も重要な1つでありながら、最も理解されていない機能です。夜が来れば当たり前のように眠りますが、その理由を明確に答えられる人はいないでしょう。なぜヒトは眠るのか。このテーマは奥が深く、21世紀に残された最大の謎だと言われています。睡眠物質

研究の第一人者である早石修先生は、『睡眠を研究すると眠れなくなる』と仰っておられますが、この言葉は至言だと思います。

Q 研究者を目指す(後輩)女性へアドバイスをお願いします

A 私は女性ばかりの集団で生きて来ました。重い荷物を運ぶのも、壊れた機械を修理するのも、瓶の蓋が開かない時に開ける方法を考えるのも、全て女性の仕事でした。対処方法を自分達で考え工夫して来ました。困ったことがあれば、それは自分の可能性を広げるチャンスなのだと思います。近年、様々なシーンで男女平等が謳われる

様になりました。ただ、男性と女性は「同権」ですが「同じ」ではありません。家事、育児、親の介護等、女性だからこそ求められることが沢山あります。研究者を続ける上で、女性には男性以上に多くの足枷があるかもしれません。ただ、それを足枷と捉えるか、自分の可能性を広げ、新しい何かを掴むチャンスと捉えるかは、その人次第だと思います。この世に起こる全てのことには理由があり、それらは全て good reason だと言えます。辛い時にはどうしても大変な部分ばかりが目になりますが、そんな時こそ、そこに隠れている good reason を探してみてください。一緒に頑張りましょう。

■ 経歴

2002年3月 武庫川女子大学薬学部薬学科卒業
2004年3月 武庫川女子大学大学院 薬学研究科 博士前期課程修了
2007年3月 武庫川女子大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了

2007年4月 同志社女子大学薬学部 医療薬学科助手
2008年4月 同志社女子大学薬学部 医療薬学科助教

PROFILE



誰も知らないことを 自分の実験で 明らかに できることの 面白さ。

武庫川女子大学 薬学部 卒業
株式会社 大塚製薬工場 鳴門研究所 再生医療研究室所属 研究員

阿部 直美 あべ なおみ

Q 進路のきっかけは何ですか

A 薬学部に進学するきっかけは、単純に生物という科目が好きだったことが理由です。ただ、本当に生物の面白さを知ったのは大学に入学してからでした。それまでの勉強は先生から教えてもらうものでしたが、薬理学の研究室に入り誰も知らないことを自分の実験で明らかにできることの面白さを知りました。このことが、医薬品を開発する研究者の道に進みたいと考えるきっかけになったのだと思います。けれど、実際に進路を考える時期になると、自分が研究者として生きていけるか自信が持てず、とても悩んだことを覚えています。その時、一歩踏み出すきっかけを与えてくれたのは、大学の恩師からいただいた言葉です。『目の前の壁は、とても高く感じるものだ。けれど、乗り越えてしまえば、意外と高くなかったなと振り返ることの方が多い。』今でも迷った時にはこの言葉を思い出し、ま

ずは前に進むことをモットーとしています。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか

A 本当に実現したい時には「夢」ばかりを見ないように意識しています。時間は限られているので、まず夢の実現のためにすべきことに優先順位を付けます。そして、あとは目の前にある課題に順番に取り組むようにしてきました。この習慣は、今の研究を進めていく上でも大きな糧となっています。

Q 何故今の研究分野が面白いと思えましたか

A 現在、私は再生医療領域に関わる研究に携わっています。私は、入社2年目で参加した再生医療領域のある研究会で大きな衝撃を受けました。それまでに参加した研究会や学会では、大学や、企業等の研究者の集まりでしたが、その会で目にしたのは、患者様自身、また患者様のご家族が研究会に参加され、研究者に対して新たな

医療技術の開発を訴える姿でした。再生医療領域に関わる疾患は、その多くが難治性疾患です。難治性疾患は、原因不明、治療方針未確定であることが多い疾患です。そして、それらの疾患は、治療費としての経済的な問題のみならず、介護等に人手を要するために家族の負担が重く、精神的にも大きな負担が掛かります。そんな疾患の治療に向け世界で挑戦しているのが再生医療領域であり、改めて自分の研究の意義や、目指すべき方向性について考えさせられた出来事でした。

Q ストレスをため込まないコツは

A ストレスを意識してしまうとそのことに意識が集中してしまい、行動が停止してし

まいがちになります。そこで、最近は2つのコツを実践しています。1つ目は、ストレスに対する目線をもっと先の「目標（目指したい理想とする結果）」に向けることです。つまり、今感じているストレスの原因は、目標を達成するために正面から取り組まなければいけないことなのか、あるいはそうではないのかを最初に考えます。もし後者なら、あまり悩む必要は無いことなので、何とかやり過ぎてしまえばいいのです。重要なのは前者の場合です。その場合は2つ目のコツとして、ストレスの原因を頭の中だけで留めておくのではなく、文書に書き起こす作業をします。そうすることで自分のやるべきことが整理され、「ストレス」は「課題」へと変わり、解決の糸口が見えてきます。

■ 経歴

2006年 武庫川女子大学 薬学部 卒業
2008年 大阪大学大学院 薬学部 修了

2008年 株式会社 大塚製薬工場入社 鳴門研究所 探索創薬研究部 配属
2014年 株式会社 大塚製薬工場 鳴門研究所 再生医療研究室所属 研究員

PROFILE

女性研究者支援センター キャリア支援部門

育児や介護に際し、女性研究者のキャリアを支援します



キャリア支援部門の活動紹介

若手研究者交流会

第1回 スタートアップ支援講座
「助成金を獲得するために」
横川 公子
(女性研究者支援センタープロジェクト推進支援室長)
たつみ 都志
(女性研究者支援センターキャリア支援部門リーダー)

第2回 スタートアップ支援講座
「英語論文の書き方セミナー」
ミリンダ・ハル
(カクタス・コミュニケーションズ株式会社)

第3回 スタートアップ支援講座
「英語でのコミュニケーションとプレゼンテーション」
荒井ゆき江
(一般社団法人 日本プレゼン・スピーチ能力検定 理事、神奈川工科大学非常勤講師)

第4回 スタートアップ支援講座
「英語論文の書き方セミナー」
西川 マリ
(カクタス・コミュニケーションズ株式会社)

第5回 スタートアップ支援講座
「理系論文の書き方セミナー」
谷本 敏子
(武庫川女子大学薬学部薬学科教授)

第6回 スタートアップ支援講座
「外部資金の獲得について」
横川 公子
(女性研究者支援センタープロジェクト推進支援室室長)
たつみ 都志
(女性研究者支援センターキャリア支援部門リーダー)

第1回 ロールモデル提供セミナー
報告1「女性研究者の生き方とは」
川口 真規子
(甲子園大学栄養学部 専任講師)
報告2「研究者として、母として」
鳥取部 直子
(九州保健福祉大学薬学部 准教授)
報告3「それぞれの強みを活かして!」
本仲 純子
(徳島大学 AWA サポートセンターセンター長)

第2回 ロールモデル提供セミナー
「サントリーの清涼飲料の開発・生産に携わってー仕事を通して学んだこと、考えたことー」
中嶋 悦子
(サントリー食品インターナショナル株式会社 食品事業本部 食品事業部 開発生産推進部 顧問)

第3回 ロールモデル提供セミナー
「私が選んだ「技術系公務員」という働き方ー公務員はつまらない職業なのか?公僕生活15年から思うことー」
鷲尾 真弓
(神戸市都市計画総局住宅部住宅政策課住宅計画係長)

第4回 ロールモデル提供セミナー
「夫婦で研究を続けていくには」
塩出 雅
(武庫川女子大学文学部 日本語日本文学 教授)

スピーチの行動力や考え方がエネルギーで、自分では思ってもみなかったことをたくさん聞かせてもらって頭をなぐられたような衝撃を受けました。グループワークをしたのも良かったです。

技術系公務員の方が具体的にどのような仕事をされているのかわかることができて良かったです。

結婚や出産などの不安があったが、話を聞き前向きに考えられるようになった。

英語作成に必要なポイントが分かってよかった。

日頃、他分野の方と話す機会も少ないため、とても刺激になった。自分の中で、これまでと違ったものの考え方が開拓されたように思う。

もし自分が結婚したら、仕事は続けたいと思っているので、今日は色々な話が聞けてなるほどなまじり両難にも重なりながら話を聞いてしまいました。

女性研究者相談窓口

✉ female_r@mukogawa-u.ac.jp

☎ 0798-45-3737 (内線 5073)

メール相談 件名に「相談申込」本文に「氏名・所属・相談内容」を記入の上、上記アドレスまでお送りください

電話相談 直接上記の番号までお電話ください

対象 本学女性教員、研究職志望の大学院生

- 相談例**
- ・進路・キャリア形成についての相談
 - ・研究者の就職に関する相談
 - ・出産・育児・介護等に関わる諸問題と研究等継続との両立についての相談
 - ・海外留学についての相談
 - ・困ったことがあるが、どこに相談すればよいのか分からない

武庫川女子大学女性研究者支援センター

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 武庫川女子大学 中央キャンパス内

TEL : 0798-45-3737 FAX : 0798-45-3535

Email : female_r@mukogawa-u.ac.jp